

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	認知症高齢者グループホーム なごみ
(ユニット名)	A
所在地 (県・市町村名)	山形県 鶴岡市 羽黒町 赤川 字 熊坂47-3
記入者名 (管理者)	藤原 妙子
記入日	平成 19 年 8 月 31 日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が、農村地域の持つ優しさや恵まれた自然環境の中で、その人らしく生活できるよう、また、ホームが地域住民から理解され親しまれるように取り組んでいこうという理念がある	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念共有のために、毎日の朝礼において全員で唱和し、各自理念を意識しながら日々のケアに取り組んでいる	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関・ホール等の目につきやすい場所に掲示するとともに、運営推進会議でも説明し理解していただけるよう努めている	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の人にはこちらから積極的に挨拶するよう心掛けており、事務所に立ち寄っていただいたり、老人クラブの方々からは花壇づくりや草取りに協力していただいたりと、気軽なお付き合いができるように努めている	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	神社の祭り・芋煮会・敬老会等に参加し、地元の方々と交流させていただいている。また、毎月発行している広報を配布し、情報を公表すると共に、行事等への呼びかけを行っている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	日常の地域住民とのふれ合いの中で、同居家族の介護に関する相談があった際に、アドバイスするなどの対応をしている	○	今後、地区の介護講習会の開催など、地域住民の意向を汲み取りながら対応していきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で行っている。 また、外部評価の結果については職員間で話し合いを行い、改善に向けて取り組んでいる		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホーム側からの報告を行った後、様々な立場の方々から率直な意見を頂き、その意見を参考にしながら活かせるものは活かしていくよう努めている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村が主催する会議・研修会等に積極的に参加し、市町村の介護サービスの実情を把握するとともに、市町村担当者と相談しながらサービスの質の向上に取り組んでいる		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会に参加し理解している職員もいるが、全職員が理解しているとは言えずホーム内で研修する機会を得た		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内の研修会において全職員で学び合い、虐待防止に努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際は利用者家族(本人同行の時もあり)からホーム内を見学していただきながら説明したり、書面にて十分な説明を行い理解・納得していただいている。 解約の際も家族と十分に話し合いを行い連携を密にしている	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員からの報告や、日々の利用者との関わりの中から意見や思いを汲み取り、ユニット会議・全体会議で話し合いを持つようになっている	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回発行している広報や個人宛の便りにて状況報告しており、必要時は電話連絡したり来訪時に報告したりしている	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置し、入居時や運営推進会議でも説明している。また、日々要望等を言っただけのような雰囲気づくりを心掛けており、来訪時に要望等をお聴きするようになっている	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	役職者会議・全体会議の中で意見を求めたり、日々のコミュニケーションの中で話し合いをしている	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況の変化が生じた場合は、その時々々の状況の変化に対応できる職員の確保に向け勤務調整を行い、利用者や家族の要望に沿えるよう努めている	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は必要最小限にしており、職員・利用者・家族間に、なじみの関係や信頼関係が築かれていると思われる	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望する研修への参加を募り、段階に応じた研修を受けられる配慮をしている。 また、職員会議でその研修報告会を行い、全職員で学び合っている	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会・会議に参加した際の懇親会の席での同業者同士の交流や交換実習を通じて意見交換を行い、お互いに切磋琢磨しながらサービスの質の向上に繋げていけるような取り組みをしている	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々職員の疲労やストレスに気配りをし、利用者と離れた場所に休息・喫煙場所を確保している。 また、親睦会を行うことにより気分転換が図られている	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	可能な限り休日も出勤し、職員の勤務状況の把握を行い、職員の研修会等への参加の奨励や資格取得に向けた支援をし、職員が向上心を持って働けるように配慮している	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用される前は必ず本人に面会してよくお話をお聴きし、本人が安心して利用できるよう努めている	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が相談や利用申し込みのため来訪された際、要望や困っていることをできるだけ時間をかけてお聴きするようにし、信頼関係を築けるよう努めている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況を把握し、家族の要望や求められていることをお聴きした上で、その方がより良いサービス利用ができるよう検討し、紹介等を行っている		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の人格を尊重し、利用者の立場に立ったサービス提供を心掛け、一緒に作業をしたり会話をしたりする中で、利用者の特技や長所を発見し学ばせていただいている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちを受け止められるよう、できるだけ連絡を蜜にしながら日頃のコミュニケーションを心掛け、一緒に本人を支えていこうという心構えで接している		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	家族の来訪時の交流、一時帰宅や外食・通院のための家族と一緒に外出、ホームの行事への家族の参加等により、本人と家族がより良い関係を築いていけるよう支援している		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人等の来訪を歓迎している。 コミセンで開催されている短歌会・老人会に出席され、馴染みの方との交流を続けておられる利用者もおり、職員も協力し継続できるよう支援している。 また、亡くなられた友人の弔問にも付き添っている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の相性を考えた上で居場所を工夫し、トラブルを未然に防ぐ対応を心掛けるとともに、職員が橋渡しとなって利用者同士の絆が深まるような働きかけをしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されたり施設を変わられたりして退居された利用者本人とは面会していないものの、家族や入院先・退居先の関係者の方からは様子をお聞きしたりしている	○	継続的な関わりを必要とする利用者がおられた場合は積極的に関わりを持っていきたい
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションや関わりの中で把握したり、困難な場合は家族からの情報を基にしたり、その方の仕草や表情から把握するようにしている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用される前に本人や家族からお聴きした情報や、以前利用されていたサービス事業所からの情報等を把握し、利用後も家族の来訪時や本人との日常的な会話の中から積極的に把握するようにしている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録や申し送りノートに日々の過ごし方や心身状況を記録し、常に職員が目を通して現状把握することにより、出来ない事は支援し、出来る事は活用できるよう努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の中で本人から聞かれた言葉や様子、家族からの要望、主治医や看護師の意見やアイデアを反映した介護計画を作成している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行うとともに、利用者の状態に変化が生じた場合は、関係者と話し合い、現状に即した介護計画を新たに作成している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・申し送りノート・介護日誌に一日の様子や出来事、また、気づきや変化を記入し、勤務に入る前に必ずそれらを確認し情報を共有し日々のケアに反映させているとともに介護計画の見直しにも活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	/		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	市役所・社協・地区の代表の方々から運営推進会議に参加していただき意見交換を行い、利用者の安全な生活を支援できるよう協力をいただいております。消防署からの協力を得て定期的に防災訓練も実施している。また、本人の意向で図書館等へ積極的に外出していただけるよう対応している	○	地元の消防団との連携強化
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	入退居の相談、その他色々な面で、他事業者の方々(ケアマネジャーも含む)との連携を密にするよう努めている。また、介護保険外のサービスとしては訪問理容サービスや地域のボランティアの方々の来訪をお願いしている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	『ケアネットつるかみ』の会員となり研修会に参加し、地域包括支援センターの職員との情報交換はしているが、協働までには至っていない	○	今後必要性が生じた際は協力をお願いしたい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関の他、必要とする医療機関へ家族と協力して通院介助を行っているとともに、訪問診療のケースもあり、医療機関と密にしながら支援している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	内部・外部研修等で職員の意識向上を図っており、尊厳を持った言葉かけや対応を心掛けながら日々の業務に当たっている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員が一方向的に押しつけるのではなく、利用者一人ひとりの思いや希望に傾聴しながら、できるだけ自己決定できるような声かけ・対応を心掛けている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体の一日の流れはおおよそ決まっているものの、一人ひとりの心身の状況やその日の体調等に合わせながら、また、本人の希望に沿いながら、臨機応変に対応している	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎月一回、理容師さんから訪問していただき、毛染めやパーマの希望があれば、美容室への送迎を行っている。また、外出時の着替え等、身だしなみやおしゃれの支援も行っている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で採れた野菜をどのようにして食べるかを一緒に考えたり、一人ひとりの好みや状態に合わせた調理方法や食事形態での提供を行っている。また、職員も一緒に食事を摂っている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者一人ひとりの嗜好を把握し、嗜好に合わせた飲み物やおやつを提供している	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を決めてトイレ誘導したり、尿・便意のない利用者についても、日中はできるだけトイレで排泄できるよう対応している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日と時間は決まっているものの、その日の一人ひとりの状況に合わせて、曜日や時間を変更したり対応を工夫したりしながら、少しでも希望に添えるよう支援している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活性化に努め安眠を促しているものの、ソファーに横になっていただいたり、思い思いの場所で休息していただいたりして、一人ひとりの状況や生活習慣に合わせた支援をしている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの持っている力を伸ばせるよう、家事手伝いや農作業などを一緒にやっていただいたり、個人の楽しみごとやドライブ、行事等で気晴らししていただけるよう支援している		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所有し、買い物に行ったり、会合に行った際、自分で会計をしている利用者がおられるものの、殆んどの利用者がお金を所持されておらず、ホームが立替払い対応をしている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームで計画した花見等のバスハイクの他、天気の良い日はできるだけ希望する場所へのドライブや買い物等に出掛けられるよう支援している。また、好きな時に戸外に出て、敷地内の花壇を眺めたり、畑での収穫を楽しんでいただいている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族や知人の協力を得て、自宅に帰ったり、お墓参りをしたり、外食をしたり、趣味の会に参加したりと、出掛ける機会をつくっている。また、職員が個別に対応し、本人が通い慣れた場所や懐かしい場所への外出支援を行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等からの手紙や電話を歓迎し、取次ぎを行ったり、本人に代わっての電話や番号の押せない方への支援をしている。また、年賀状を出すための支援もしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等がいつでも気軽に訪問しやすい雰囲気づくりを心掛け、笑顔で挨拶するよう心掛けている。来訪の際は利用者と一緒にお茶を飲んだりお菓子を食べながら、ゆっくり過ごしていただけるように配慮している		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内で身体拘束に関する勉強会を行い、利用者が事故につながらず安全に過ごせるよう声かけ・見守りを行いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	外出傾向のある利用者一人ひとりの外に出たくなる理由を理解するように努め、無理に引き止めずに見守りを強化したり同行したりして対応し、日中は鍵をかけないで自由に出入りしていただいている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員全員がホールから外れることのないよう、職員同士声をかけ合いながら利用者の状況把握と安全に努め、夜間は2時間毎の巡視と起き出し時の対応を行うなど、安全に配慮している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品等の保管庫には鍵をかけて対応している。包丁・食器用洗剤等は所定の場所に置き、使用時には危険のないよう対応している。ハサミや裁縫箱は居室に置いている利用者もおられる		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月事故防止委員会を行い、ヒヤリハットやアクシデント発生時の状況を振り返りながら、今後の再発防止策について検討している。また、利用者の状況変化に伴い想定される危険性やリスクについて、ユニット会議等で話し合いを持ち事故防止に努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	日中・夜間の救急対応についてのマニュアルを作成し、周知徹底を図っている	○	消防署の協力を得て、救急救命法の研修・実技の実施を予定している
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成しており、消防署の協力を得て年2回利用者とともに非難訓練を行っている。また、運営推進会議などで災害発生時の協力を呼びかけている	○	地震・水害等の対応については現在、地域の消防団の方と相談・検討している
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状態の変化に伴うリスクについて話し合いをするも、どのご家族からも安全のための拘束や鍵かけの弊害を納得・理解していただいております、利用者は抑圧感のない生活を送られている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全職員が利用者一人ひとりの既往症や留意事項を把握しており、その日の勤務に入る前に必ず日常生活チェック表(食事・水分摂取量、排泄チェック、バイタルチェック)やケース記録に目を通し、情報の共有に努めている。また、異常の兆候を見逃さないよう様子観察に努め、必要時は医師・看護師に連絡し、指示を仰ぎ対応している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に薬の効能書きを綴り、情報を共有している。また、臨時薬が処方されたり、用量の変更があった際は、申し送りノートやケース記録に記録し職員間で共有すると同時に、状況の変化時の記録と医師、場合によっては家族への報告をきちんと行うよう心掛けている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤に頼らぬよう、毎日の水分摂取量と排便のチェックを行い、無排便の日が続いた時だけ下剤を使用するなどしている。また、できる限り運動や散歩を促し、自然排便ができるよう取り組んでいる		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員会議に合わせ、年2回、連携を取らせていただいている歯科医から口腔ケアに関するご講演をいただき、口腔ケアの重要性を学んでいる。毎食後、一人ひとりの状況に合わせた口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持に努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し情報を共有。個々に低下の状況を把握し、その方に合わせた食事・水分摂取量が確保できるよう工夫している。主治医のの指示により、栄養補助食品を使用されている方もおられる		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各種感染症に関するマニュアルを整備。感染症の流行の情報に迅速に対応し、感染防止に努めている。また、職員・利用者とも、全員インフルエンザの予防接種を行っている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具・冷蔵庫・流し台等は曜日を決めて消毒・清掃を行い、調理前の手洗いを励行している。食材については、信頼のおける業者より、新鮮な物が毎日配達納品される		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関脇には洗濯物が干されており、玄関先にはプランターが置かれ、家庭的で明るい雰囲気になっている。また、敷地内には花壇や畑もあり、誰でも安心して出入りできるようになっている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光が入らないように工夫され、野菜を刻む音やご飯を炊く匂い等が五感への心地よい刺激となっている。また、花や利用者の作品で装飾し、居心地のよい共用空間となっている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に畳み敷きのスペースもあり、また、椅子とソファを設置しており、それぞれ思い思いの場所でくつろいだり、会話をされたりして過ごされている。また、玄関ホールに設置されている椅子や玄関先に置かれている椅子を活用されている利用者もおられる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していたタンスやテーブル、また、使い慣れた日用品や写真・遺影など、本人にとっての馴染みの物を持ってきていただき、居心地良く過ごしていただけるよう配慮している		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	意識して換気を心掛け、利用者の声を聞いたり反応をみながら温度調節を行っている。 また、トイレに悪臭が漂わないように、消臭剤と換気扇を使用している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置、動線には障害物を置かないようにするなどして安全に配慮するとともに、できるだけ自立した生活が送れるよう、利用者の背の高さに合わせた流し台を設置したり、福祉用品を使用するなどして工夫している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者一人ひとりの“わかることとわからなくなってきていること”、また、“できることとできなくなってきていること”を職員間で常に話し合いながら、利用者ができる限り混乱せず自立して暮らせるよう個々に合わせた対応を工夫している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内の花壇や畑を車椅子の方も入れるように整備し、外気浴を楽しんでいただいたり、元気な方からは草取りや野菜の収穫をしていただいたりしている		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然環境豊かな農村地域に根ざし、開設当初から地元集落の一員として認知していただき、職員が集落の諸行事へ参加したり、集落の方々からホームの夏祭り等へ参加していただくなど、積極的に地域との交流を図りながら、“利用者にとって居心地の良いグループホームづくり”を目標に日々取り組んでおります。

また、ホーム内の敷地を活用して、農業高校との連携による『花壇づくり』を行い、地元老人クラブの皆さまの協力を得ながら、苗の植栽や除草作業に取り組むなど、ホームとしての特徴づくりを心掛けております。

周囲の景観に加え、ホーム内は利用者が穏やかな生活を送れるよう、ホールの天井を高くし、採光と風通しが良くなるように工夫され、圧迫感のない明るい雰囲気となっております。

今後も利点を活かしながら、地域の方々のご協力の下、より良いホームづくりに邁進していきたいと考えております。